

各種データの取扱い方法

データはあくまで、「ある時点」での生徒の状況の「一面」を示しているものです。生徒が自らの希望の実現に向けて前向きに取り組めるよう、生徒一人一人の課題の把握と目標設定のために有効に活用しましょう。

○ データの取扱いと指導の指針

進路選択の指導にあたっては、学習確認プログラムをはじめ、各種データの意味を生徒に十分に理解させ（例えば、学習確認プログラムの成績表の各項目が示す内容等）、一人一人の課題や目標設定を明確にして指導してください。

そのうえで、進路選択は、生徒が自らの将来や生き方をみすえ、生徒自らの社会的・職業的自立に向けて行うものであることを十分に尊重し、生徒自身の主体的な選択につながる指導を行うことが大切です。

○ 学習確認プログラムについて

1・2年生では、学習習慣・学力定着を図るために、予習・確認・復習という学びのサイクルに重きをおいたプログラムとなっています。

3年生では、平成25年度より、公立高校の新しい選抜制度の実施に伴い、生徒の多様な進路選択に対応したプログラムとなっています。

2回ある確認テストの出題範囲は、1年時からの学習を振り返る広範囲な出題となっており、安易な予習だけでは結果が伴いにくくなる一方、生徒の学習の定着度（実力）をはかることにより、生徒自らも学習確認プログラムの結果を、進路選択の際の資料の1つとして活用できるようになっています。また、広範囲にわたって生徒の不得意教科・分野や課題が明確になるため、確認後の復習を充実させることにより、生徒の学力の定着をはかり、生徒が高い目標を設定することを後押しする指導に活かすことができます。

生徒個々の選択先により、取組内容や課題が変わることを踏まえ、学習確認プログラムの2回目終了後からは、それぞれの目標設定に応じたより細かい学習計画をたて、取組を進めるようにしてください。

○ 全国学力・学習状況調査について

毎年3年生の4月に実施する、全国学力・学習状況調査は、主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題が出題されており、その結果は、生徒の1・2年生で学習した基礎・基本の内容の定着度や、情報活用力等を示しています。個人票の返却は、夏以降ですが、各校で自己採点をするなどの工夫をし、早期に生徒へ課題を示す取組が大切です。

また、生活習慣や、学習環境に関する質問紙調査の結果は、生徒の状況を知る有効なデータです。積極的に活用してください。

保護者の皆様へ

家庭でも、進路について子どもと話し合うなど、お互いの気持ちを伝え合うことが大切です。

学校では、子どもたちの進路指導のために、情報提供や相談の機会を設け、また、体験活動等を通して進路選択を考えるなど、様々な取組を行っています。一方で、子どもたちのキャリア発達には、家庭や地域からの働きかけも重要です。学校の取組、生徒の取組を知っていただき、家庭でも進路や将来について話し合いの機会を設けることが大切です。

- 学校日より等に、進路関係の情報を積極的に掲載します。
- 高校説明会・見学会・体験学習の情報提供や、コーディネイトを行い、生徒の積極的参加を促します。
- 三者懇談等で、保護者の皆様への情報提供（成績、学校での様子、生徒の能力・適性、進路先情報）を行います。また、懇談等は、保護者の皆様の意向を直接把握する機会でもありますので、ご相談やご意見をお待ちしています。
- 就職に関する情報提供や、相談を受ける体制を用意します。

このリーフレットは、平成24年度からの中高接続プロジェクト※での議論をふまえて、作成したものです。

※中高接続プロジェクトは、生徒が将来、自立・自律した市民としてよりよく生きるため、中等教育の中で一貫して生徒の力を引き出し、学び続ける意欲を育てることを目的として、中学校長会、高等学校長会及び京都市教育委員会で構成する組織です。

平成25年7月
発行 京都市教育委員会指導部学校指導課
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 (TEL 075-222-3801)

生徒一人一人の キャリア発達をみすえた 進路指導のために



中学生が自らのキャリア形成に向けて、目的意識をもって希望する高校を主体的に選択できるよう、京都市・乙訓地域公立高校の新しい教育制度が平成26年度から始まります。中学校においては、これを機に、これまでの進路指導を見つめ直し、一層充実させることが求められています。

このリーフレットは、全ての教職員が、「キャリア発達の支援を踏まえた進路指導」を進めるにあたって、常に意識して取り組むべきことをまとめたものです。

京都市教育委員会

生徒の主体的な進路選択への支援



教職員のチームワークでキャリア発達支援を!!

生徒の主体的な進路選択へ

★図の見方

緑の枠には、「目指す生徒の姿」について書かれています

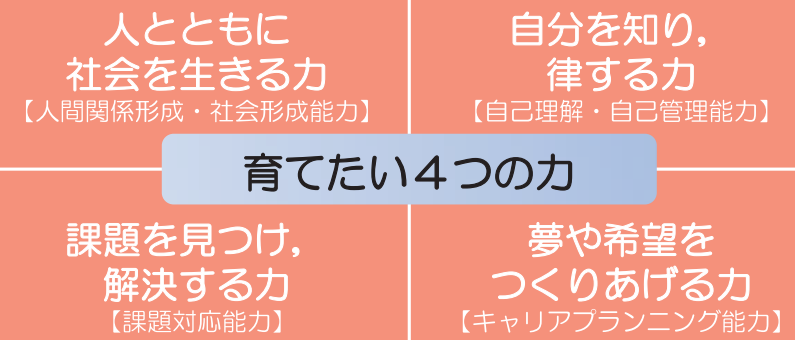
白の枠には、「教師の指導のあり方」について書かれています

自分の強み・弱みを知り、学校生活・家庭での生活の見直しができる生徒

- ・学校生活の中で、友人や先生から生徒の良さや、可能性を発見・伸長してもらう機会を設ける
- ・生徒の弱点を把握し、克服に向けた支援を行う
- ・生徒の特性に応じた進路先の提案や、高い目標設定を後押しする指導を行う
- ・全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえて、生活全般について助言する
- ・三者懇談等のあらゆる機会を利用し、保護者への情報提供（成績、学校での様子、生徒の能力・適性、進路先情報等）を行い、家庭でも生徒の特性や、進路について話し合ってもらえるようにする

自分の進路選択に向き合うことができる生徒

- ・1年生時から自分の将来を考えさせ、その実現に向けた進路を探し、目標を設定させる
- ・早い時期から進路情報の提供や、新しい入学者選抜制度について理解させ、進路希望調査を実施する
- ・生徒の希望状況やその背景を把握する
- ・保護者に進路情報を説明し、保護者の意向や願いを把握する



中学卒業後の進路について知り、理解できる生徒

- ・高校など上級学校の説明会・見学会・体験学習等について情報を収集し、廊下・教室の掲示板や生徒が進路情報資料を自由に持ち帰られる整理棚等を活用して、情報提供を行う
- ・進路通信（学級通信、学校だより等を活用）を発行し、学級の時間等で紹介する
- ・中高の連携を進め、高校からの出前授業等を設定する
- ・就職に関する情報提供を行う

自分の成績を自己分析できる生徒

- ・通知表、学習確認プログラム、全国学力・学習状況調査、校内での定期テストや課題テスト等の結果を提供する
- ・各成績データのもつ意味を考えさせ、得意・不得意教科（分野）や課題を把握させる
- ・定期テストや、学習確認プログラムなど、それぞれのねらいを生徒に理解して取り組ませ、結果返却時には各データのもつ意味を説明するとともに、適切な助言を行う
- ・成績資料等は、全学年のものが共通の様式で管理できるよう統一する
- ・小学校から継続した資料の作成を行う

進路を選択するのは、生徒自身です。そのためには、幼児期や小学校の段階から子ども一人一人のキャリア発達を支援するため、学校教育全体の活動を通じてキャリア教育に取り組み、子どもたちに必要な力を育てていくことが求められます。

とりわけ、進学や就職という、キャリア発達の上での重要な選択の場面に直面する中学生にとっては、自分自身のことについて正しく理解し自己有用感を得るとともに、夢や自分の希望を実現するために何をすべきかをよく考えることなどが大切となってきます。その取組を的確に支援することが、進路指導の重要な役割です。

ここでは、目指す生徒の姿を実現するための教師の指導のあり方の具体例をまとめています。

自分の興味・関心・適性について考え、表現できる生徒

- ・学習過程で生徒が作成した様々なものや、成績資料等を収集したファイル等を作成させ、自分を見つめ直すための資料とする
- ・「将来の夢」や「なりたい自分」について考える機会をつくる
- ・生徒会活動や部活動、学校行事（文化・体育等）の取組を充実させ、生徒の特性や個性を形成し、磨く機会をつくる

将来の職業（仕事）や、必要な適性・能力・資格について知り、理解できる生徒

- ・生き方探究チャレンジ事業や京都まなびの街生き方探究館の活用など、体験活動を充実させ、将来の夢や職業への関心・意欲につながるよう実施する
- ・卒業生（高校生・大学生・社会人）の体験談を聞かせたり、現在の状況を知らせることで、将来展望をもたせる
- ・大学、企業等の情報を得たい生徒に、収集方法等を助言・支援する

ここでちょっと確認!

京都市では、生徒が自分自身で進路を考え、自分づくりを支援するための「キャリア(進路)ノート」を配布しています。学校教育活動を通して、積極的に活用してください。

ここでちょっと確認!

キャリア発達 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程
 キャリア教育 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
 (文部科学省「キャリア教育の手引」より)

学校での進路指導の組織づくり

キャリア教育にもとづく進路指導は、学校の全教育活動を通して取り組んでこそ、そのねらいを達成することができます。学校の教育目標、方針等にしっかりとキャリア教育を位置づけ、教職員の共通理解のもとに推進することが重要です。中学校では特に、従来の進路指導の体制（進学先や就職先の決定をめぐる指導を中心に担ってきた体制）とキャリア教育の推進体制との関連を整理し、明確にしておくことが求められます。

具体的には、キャリア教育の推進体制に進路指導の体制を包含する体制が考えられます。ただし、組織づくりについては、各学校の実態に即して、創意ある体制を整えていくことが大切です。